

第 11 章（オバマ政権の外交政策）の重要用語

①スマートパワー

オバマ政権の採用すべき外交戦略として提起された概念。軍事力によるハードパワーと外交力によるソフトパワー（外交力）を適切に組み合わせたスマートパワーによって、賢く国益を追求すべきだとする外交戦略。

②マルチパートナー外交

大国が競合する多極化世界の出現を抑制するため、非伝統的脅威を中心とした新たな課題を提起して、アメリカを中心とする国際協調体制（マルチパートナー世界）を実現する外交戦略。

③非伝統的脅威

テロや内戦、大量破壊兵器の拡散、環境問題や伝染性疾病など、非国家主体の生み出す脅威。国家同士の直接対立の危機が後退した冷戦後に注目されるようになり、国家間協調によって対処されるようになった。

④伝統的脅威

領土や領海、国家の政治的独立、国民の生命や財産などに対し、敵対する国家が軍事力を行使する脅威。冷戦終結後、ソ連の脅威から解放された多くの先進民主主義国にとっては基本的に消滅している。

⑤2010QDR（2010年版4年ごとの国防見直し）

4年に一度、国防長官を長として中長期的な視点からアメリカの国防戦略や戦力構成などを見直す重要文書。2010年版では、戦争のハイブリッド化やグローバル・コモنزの不安定化、脆弱な国家の問題などが指摘されている。

⑥グローバル・コモنز

自由なアクセスの保障された空、海、宇宙、サイバー空間のこと。グローバルな経済活動の前提であり、アメリカは、近年、新興国や非国家主体によってその開放性が侵害されつつあると警戒している。

⑦接近拒否・領域拒否（A2AD）

多数のミサイルや電子兵器によって、海外に展開する米軍の介入を阻止したり、紛争領域での米軍の自由な活動を妨害する能力。急速な軍拡により、中国の人民解放軍は A2AD 能力を獲得しつつあるとされる。

⑧対反乱作戦（COIN）

ゲリラやテロリストなどの反乱軍を撲滅するための作戦。反乱軍と直接戦うのではなく、住民の保護や住民からの支持の獲得を優先して、反乱軍と住民とを分断させて、治安の回

復をめざす。

⑨アフパク（AfPak）戦略

タリバンとアルカイダがアフガニスタン南部やパキスタンの国境地帯を根拠地として勢力を回復してきたことから、両国を一体のものとして捉え、タリバンとアルカイダの打倒をめざす戦略。

⑩核不拡散条約（NPT）

核兵器の拡散を防止しつつ、原子力の平和利用を進めるための多国間条約。米英仏露中の核兵器保有国以外の国々への核兵器や技術、関連物資の拡散を防止するため、国際原子力機関（IAEA）による査察が行われる。

⑪核態勢見直し

アメリカの核戦略に関する基本文書。1994年、2002年に次いで発表された2010年の文書では、核テロリズムや核拡散の脅威を最優先の課題としつつ、同盟国への核の傘の提供は維持するとされている。

⑫戦略核兵器削減条約（START）

冷戦末期の1991年、戦略核兵器を削減するために米ソ間で締結された条約。1994年から2009年までの15年間で、両国は戦略核弾頭数を冷戦期の60%にまで削減した。